

元気づくり支援金を用いた地域防災力の向上（事業のイメージ）

危機管理防災課
地域福祉課

1 課題 支え合いによる避難が必要

自力では避難が困難な者

- ・避難行動の認識（マイ・タイムライン作成）
- ・災害リスクを認識（ハザードマップ活用）

地域

- ・地域の支え合いづくり
- ・**災害時住民支え合いマップ**を作成

●災害時住民支え合いマップの作成を支援

- ・地域福祉総合助成金
- 災害時住民支え合いマップ作成促進事業（県）
作成経費について1地区あたり10万円を限度に市町村（中核市除く）へ助成

※事業の組み合わせ

2 元気づくり支援金「地域防災力の向上」の活用

地域（自主防災組織など）

- 地域の災害リスク等の共有
（例）・防災まちあるき
・防災ワークショップ
・身近な防災マップの作成
・簡易雨量計等の設置
・孤立可能性集落と支援者の交流
・避難所運営体験 など

○率先安全避難者による避難誘導

○地域の人材の掘り起こしと協働 など

地域における避難体制構築

◎訓練等の実施による実効性の確保

○地域住民の避難体制の構築と防災訓練の実施

**元気づくり支援金
（重点事業）**
事業を活用して、
地域全体の取組で
「逃げ遅れ」を
出さない！

地域（子どもたちなど）

- 地域の災害と環境を学ぶ
（例）・地球温暖化による気象への影響
・地域の災害リスク
- 過去の災害を学ぶ
・地域の災害の履歴、地域の災害伝承
- 今を体験する（災害の疑似体験）
・防災キャンプ、避難所宿泊体験 など

- 学びの成果を地域全体で共有
（例）・発表会、防災講座
・未来へのメッセージ発信 など

◎学びにより未来へつなげる

○防災教育・災害履歴の伝承

3 災害時住民支え合いマップの作成支援と元気づくり支援金のパッケージによる効果の拡大

①災害時住民支え合いマップの作成（**地域福祉総合助成金等**）
・作成経費（地域を支援した市町村に対して助成）

+

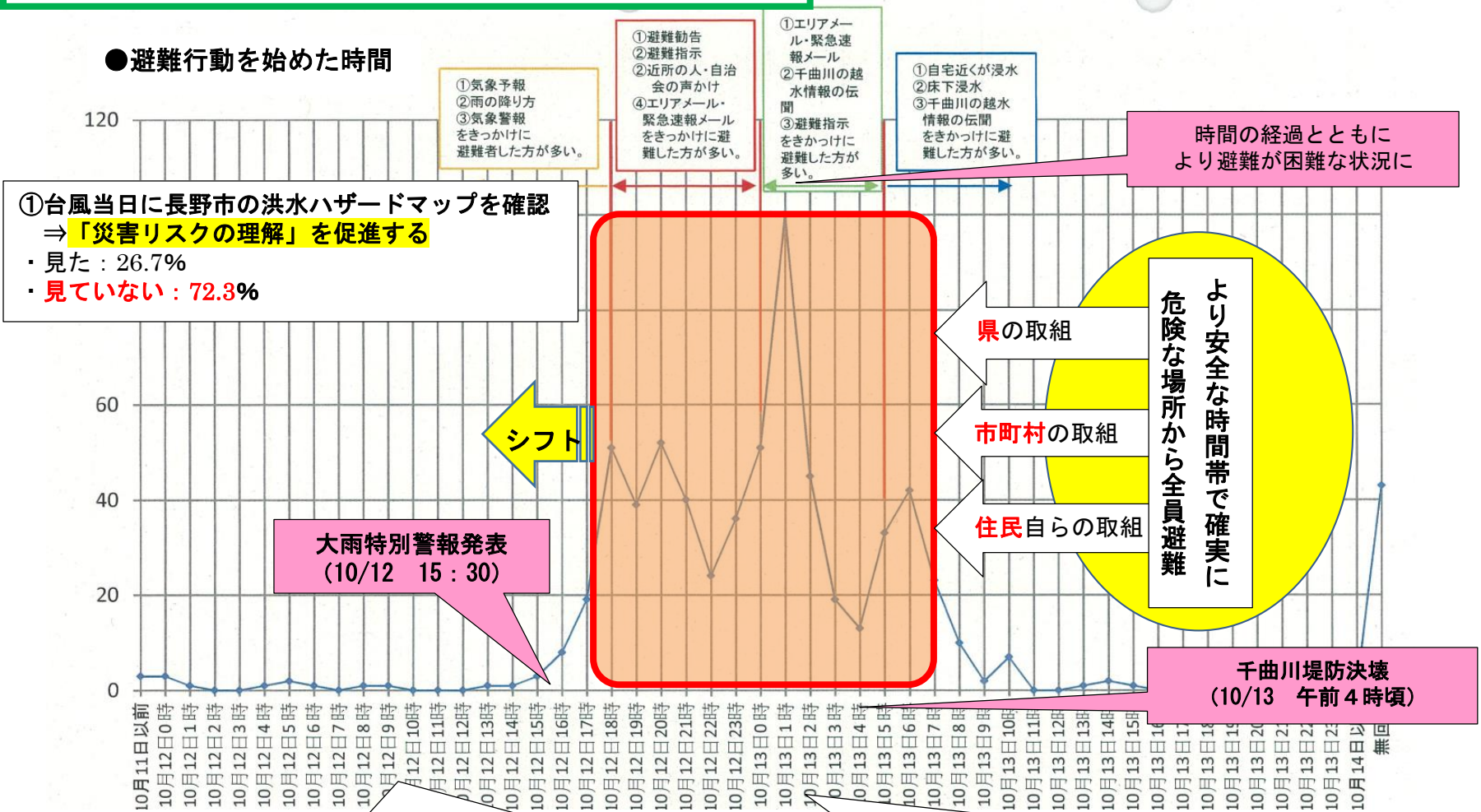
②**元気づくり支援金**の活用
・避難体制の構築
・避難訓練の実施 など

=

③逃げ遅れを出さない地域
・支え合いの地域づくり
・実効性の高い避難体制の確保

課題：令和元年東日本台風災害では
 浸水区域から約1,700人が救助
 また、**適時適切でない行動により被災した事例が発生**

●避難行動を始めた時間



②避難場所⇒「あらかじめ避難行動を決める」
 ・特に避難場所は**決めていなかった：50.4%**
 ・近くの指定避難所への避難を決めていた：32.0%
 ・親せきや知人宅に避難すると決めていた：8.6%

③避難しなかった理由（複数回答）⇒「正常性バイアス」を打ち破る」
 ・被害にあう**と思わなかった：42.5%**
 ・これまで被害に**あったことがなかったから：39.2%**
 ・いざとなれば2階など上階へ逃げればよいと思った：32.0%
 ・**近所の人**が避難して**いなかったから：19.2%**
 ・避難すればよいかの**判断が難しかった：18.5%**

※「令和元年東日本台風災害対応検証報告書（長野市）」より抜粋